西武鉄道 NEWS RELEASE

２０２６年5月１４日

２０２６年度　鉄道事業設備投資計画

安全性の向上、サービスの向上、環境対策などに、過去最大の総額４６２億円

・ホームドア整備の推進
・新宿線新車両「トキイロ」の導入
・山口線新型車両「Ｌ００系（れおけい）」第２編成の導入

西武鉄道株式会社（本社：埼玉県所沢市、社長：小川 周一郎）は、**安全・安心なサービスの更なる追求を事業の根幹に「沿線価値向上」・「デジタル化」・「働きがい向上」を重点テーマ**として鉄道事業設備投資を実施しています。２０２６年度は**過去最大の総額４６２億円**を投じ、安全性の向上、サービスの向上、環境対策などに努めます。今後も安全・安心なサービスの提供と社会的課題への継続的な対応により、「住みたい沿線」「訪れたい沿線」の実現を目指してまいります。

詳細は、別紙のとおりです。

≪２０２６年度 鉄道事業設備投資の概要≫

【事業の根幹】安全・安心なサービスの追求

（１）より安心してご利用いただけるバリアフリー設備へ
- ➢ ホームドア整備

（２）より安全な踏切へ
- ➢ 高規格な踏切支障検知装置の新設・更新と踏切異常検知システムの新設

（３）より安心してご乗車いただくための災害対策
- ➢ 落石防護の推進、法面の改良、耐震補強の推進

重点テーマ①　沿線価値向上

（１）新宿線の有料着席サービス刷新と快適性の向上へ
- ➢ 新車両「トキイロ」の導入

（２）より環境にやさしい設備の積極的な導入
- ➢ サステナ車両導入、山口線車両新造

（３）連続立体交差事業の推進
- ➢ 連続立体交差事業（東村山駅付近、中井～野方駅間、井荻～西武柳沢駅間、野方～井荻駅間）

（４）より魅力的な駅空間へ
- ➢ SEIBU BLUE ART STATION の推進

重点テーマ②　デジタル化

よりスマートなサービスの提供へ
- ➢ 乗車券システムの進化

重点テーマ③　働きがい向上

働く社員の職場環境の改善・整備
- ➢ 働きがいのある環境づくりや職場環境の整備により、従業員の満足度向上へ

【別紙】

２０２６年度　鉄道事業設備投資計画について

【事業の根幹】安全・安心なサービスの追求

「より安全な」・「より快適な」設備の追求

ご利用いただくお客さまと西武線沿線にお住まいの方々の安全な暮らしを最優先に考えた安全対策投資に重点をおくとともに、今まで以上に快適にご利用いただけるサービスの提供を目指します。

(1)より安心してご利用いただけるバリアフリー設備へ

・ホームドア整備

お客さまのホーム上からの転落や列車との接触を防ぐため、ホームドアの整備を推進いたします。今年度は池袋駅（７番、特急ホーム）、中村橋駅、富士見台駅、新桜台駅にてホームドアの稼働を予定しております。また、２０２７年度以降も以下駅へのホームドア整備を予定しております。

【今年度の稼働を予定する駅】

池袋駅（７番、特急ホーム）、中村橋駅、富士見台駅、新桜台駅

【２０２７年度以降の稼働を目指す駅】

２０２７年度稼働目標：池袋駅（１番ホーム）、東長崎駅、大泉学園駅、花小金井駅

２０２８年度稼働目標：椎名町駅、下落合駅、中井駅、田無駅

連続立体交差事業とあわせて整備：東村山駅（高架化後新宿線上り・国分寺線・西武園線ホーム）

※部材の調達状況などにより計画を見直すことがあります。

【ホームドアおよび固定柵の長期的な整備目標】

当社では以下の通り、ホームドアおよび固定柵の長期的な整備目標を定めております。本目標に従い、長期的に整備を進めてまいります。

・ホームドアもしくは固定柵の全駅（東飯能～西武秩父駅間各駅を除く）への整備を目指します。
・当面は、池袋～小手指駅間、西武新宿～新所沢駅間、小平～玉川上水駅間、豊島線、西武有楽町線各駅へ、おおよそ２０３０年代半ばまで※のホームドア整備を目指します。

※連続立体交差事業など他の工事を予定する駅は、それら工事にあわせて整備を進めます。

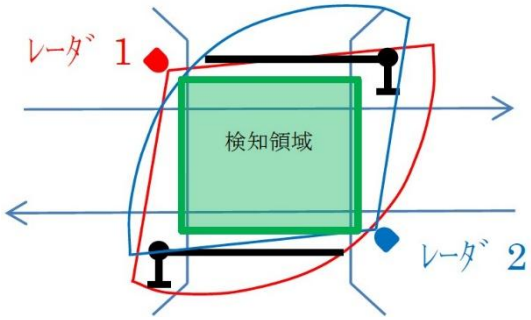


(2)より安全な踏切へ

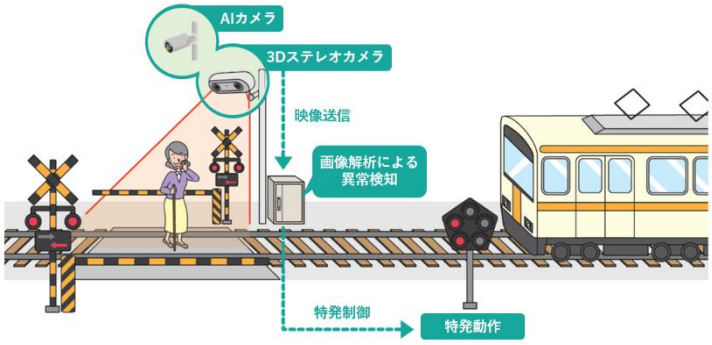
・高規格な踏切支障検知装置（２D 式）の新設・更新と踏切異常検知システムの新設

踏切支障検知装置の高規格化を進め、従来の「線」で検知する方式（光電式）から、「面」で検知する方式（２D 式）に更新することにより、検知能力を向上させて安全対策を強化します。今年度は新設２ヵ所・更新８ヵ所、計１０ヵ所の踏切へ設置予定です。

また、踏切内にとり残された「人」を画像解析により検知し列車に知らせる「踏切異常検知システム」を２０２５年度までに１６ヵ所の踏切に設置しました。今年度は２ヵ所の踏切に新設します。



2D 式検知領域イメージ



(3)より安心してご乗車いただくための災害対策

・落石防護の推進

斜面からの落石が列車に衝突するのを防ぐため、線路に沿って落石の進入を防止する柵等を整備しています。今年度は、西吾野～正丸駅間に整備します。


落石防護設備

・法面の改良

列車運行の安全を確保するため、線路に面した法面などを改良することで斜面の安定化を図り、土砂崩壊を防止します。今年度は、東久留米～清瀬駅間および東吾野～吾野駅間で実施します。


法面改良

・耐震補強の推進

２０２３年４月に耐震補強に関する省令等の改正が行われたことを受け、対象となる高架橋の柱に対し、２０２４年度より補強工事に着手しています。今年度は５２本の補強工事を実施し、２０２７年度末までに補強を終える予定です。


耐震補強対象の柱(例)

重点テーマ①　沿線価値向上

（1）新宿線の有料着席サービス刷新と快適性の向上へ

・新車両「トキイロ」の導入

新宿線をご利用されるお客さまや沿線地域にお住まいの方々に寄り添い、新たな活力をもたらすことを目指し、特急列車として運行している１０００００系車両の後継車両として、２０２７年春より新車両「トキイロ」を導入します。日々の移動時間をより豊かで価値あるひとときとして過ごしていただける空間を提供し、サービス向上を図ります。

「トキイロ」という愛称は、「時の色」をイメージして名付けました。車両のデザインは、朝、昼、夕の空の色をもとに、街並みや人々の隙間をつなげる様子を視覚的に表したなみ型ライン「エナジーウェーブ」に仕上げました。また、車内はリクライニングシート、全席コンセント設置など、充実した設備としています。新車両の導入にあたり快適な移動空間を作り上げるため、新しい試みとして車両内装・外装デザインに加え、愛称・ロゴ、さらにプロモーション計画まで一貫して、空間づくりの会社である株式会社丹青社とともに策定しました。



「トキイロ」イメージ



車両内装イメージ

【参考】「トキイロ」特設 Web サイト
https://www.seiburailway.jp/railways/tokiiro/

2027年度以降に運行開始を予定している新たな有料列車



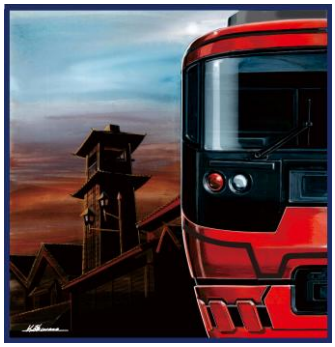


・新型レストラン列車 Fine Dining Train「vies」（ヴィエス）

２０２８年３月に新型レストラン列車の運行を開始いたします。特急電車「Laview（ラビュー）」をベースに１編成４両を新造し、車内で調理した温かいフルコース料理を提供するために、国内最大の厨房面積を有する専用車両も連結します。

「vies」は、「５２席の至福」が紡いできた価値を一層高め、格別な空間デザインや料理提供により「大切な人と過ごす、かけがえのない時間」を追求します。

・新宿線観光特急



１０００００系「ニューレッドアロー」１編成（VVVF 制御車）をリニューアルし、２０２８年度中に新宿線観光特急として運行を開始いたします。

車両デザインは、アニメ『機動戦士ガンダム』などのメカニックデザインで知られる大河原 邦男氏が監修します。車内には一般席に加え半個室やソファ席を備えるほか、バーカウンターを新設し軽食・ドリンクの提供を行います。特別な空間で、ゆったりと移動そのものを楽しめる列車を目指します。

(2) より環境にやさしい設備の積極的な導入

・サステナ車両※導入

２０２５年度に東急電鉄より譲り受けた９０００系の整備・改修が完了し、７０００系として２０２６年６月２７日に運行開始します。今年度は、東急電鉄より９０００系を４編成譲り受ける予定です。

※他社から譲受した VVVF インバータ制御車両を西武鉄道独自の呼称として定義



整備･改修が完了した「7000 系」

【参考】２０２３年9月２６日リリース
「西武鉄道と東急電鉄・小田急電鉄「サステナ車両」を授受
各社連携して、SDGs への貢献を加速してまいります」
https://www.seiburailway.jp/newsroom/news/20230926_sasutenatrain/

・山口線車両新造

２０２５～２０２７年度にかけ、全３編成を新型車両の「Ｌ００系（れおけい)」に更新します。

今年度は埼玉西武ライオンズをイメージしたデザインの第１編成に続き、夜空のようなネイビーブルーのカラーリングに西武園ゆうえんちの人気イベントである花火やイルミネーションをイメージしたラッピングで、ゆうえんちの華やかで楽しい時間を想起させるデザインとした第２編成を導入します。



山口線新造車両　第2編成イメージ

【参考】２０２５年１月２２日リリース
「８５００系の後継として山口線（レオライナー）に新型車両を導入します」
https://www.seiburailway.jp/newsroom/news/20250122_8500keishinzou/

(3)連続立体交差事業の推進

連続立体交差事業により、踏切での慢性的な交通渋滞の解消、道路と鉄道それぞれの安全性の向上、また鉄道により分断されていた地域の一体化が図られます。

・東村山駅付近連続立体交差事業（高架化）

２０１２年１０月に都市計画決定され、２０１３年１２月に事業認可を取得、２０１５年１月に工事に着手しました。この事業が完了すると５ヵ所の踏切が除却されます。

昨年度は新宿線下り線を高架化しました。これにより、踏切遮断時間の減少や渋滞緩和などの効果が得られました。

引き続き、国分寺線・西武園線及び新宿線上り線の早期の高架化に向け、工事を進めてまいります。

【参考】新宿線東村山駅付近連続立体交差事業
https://www.seiburailway.jp/safety/continuousgradeseparation/higashimurayama/
【参考】２０２６年３月５日リリース
「東村山駅付近の新宿線下り線高架化による効果」
https://www.seiburailway.jp/file.jsp?id=27046



高架化前



高架化後

東村山駅付近　新宿線下り線高架化前後の久米川第2号踏切道(府中街道)の状況

・中井～野方駅間連続立体交差事業（地下化）

２０１１年８月に都市計画決定され、２０１３年４月に事業認可を取得、２０１４年１月に工事に着手しました。この事業が完了すると７ヵ所の踏切が除却されます。

２０２６年５月８日（夜間）から、シールドマシンによる掘進を開始しました。

今年度は、中井方面取付部～新井薬師前駅部の区間より、順次野方方取付部に向けて掘進を実施する予定です。



シールドマシン

【参考】新宿線中井～野方駅間連続立体交差事業
https://www.seiburailway.jp/safety/continuousgradeseparation/nakainogata/
【参考】２０２６年４月１５日リリース
「４月１５日（水）に、シールドマシン発進式を実施しました」
https://www.seiburailway.jp/file.jsp?id=27508

・井荻～西武柳沢駅間連続立体交差事業（高架化）

２０２１年１１月に高架方式で都市計画決定され、２０２４年３月に事業認可となりました。この事業が完了すると１９ヵ所の踏切が除却されます。現在、事業に必要な用地の取得を進めています。

西武鉄道は引き続き、事業主体である東京都や地元自治体と協力し、事業の早期完成を目指し、工事着手に向けた準備を進めてまいります。

・野方～井荻駅間連続立体交差化計画の早期事業化に向けた準備

野方～井荻駅間は、連続立体交差化計画の早期事業化に向けて、事業主体である東京都や地元自治体と協力し準備を進めています。

（４）より魅力的な駅空間へ

・SEIBU BLUE ART STATION の推進

各駅やその周辺エリアの特徴を想起させるアート作品を駅構内に展開するプロジェクト「SEIBU BLUE ART STATION」として、２０２４年度からアートの力で魅力的な駅空間を創出してきました。今年度も継続実施し、沿線価値向上を図ります。



武蔵藤沢駅



航空公園駅



入曽駅

※過年度の実績抜粋

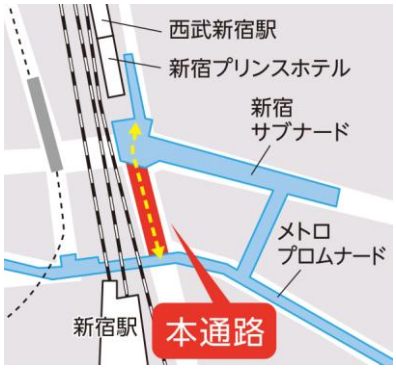
【参考】SEIBU BLUE ART STATION　ホームページ
https://www.seiburailway.jp/railways/seibublueartstation/

２０２７年度以降に予定している事業

・西武新宿 新たな地下通路整備の計画

２０２１年度に、西武新宿駅からつながる新宿サブナードとメトロプロムナードを結ぶ新しい地下通路が、都市計画決定されました。これを受け、引き続き本通路の早期実現に向け、具体的な検討および関係者との協議を進めます。

本通路の開通により、西武新宿駅をご利用のお客さまの新宿駅（JR 線・東京メトロ丸ノ内線）との乗換利便性および、まちとまち、駅とまちの回遊性の向上を目指していきます。



重点テーマ②　デジタル化

よりスマートなサービスの提供へ

・タッチ決済乗車の拡大

クレジットカード等のタッチ決済による乗車サービス（以下、タッチ決済乗車）の利用可能駅を、２０２６年３月２５日（水）より５８駅に拡大いたしました。また、２０２６年９月末には７９駅、２０２７年３月末には全駅へ利用可能駅を順次拡大する予定です。また、タッチ決済の利用が可能となる各駅（小竹向原駅は除く）においては、あわせて QR コードを使用したデジタル企画乗車券の改札機利用も可能となります。

※「QR コード」は株式会社デンソーウェーブの登録商標です。



自動改札機のイメージ

重点テーマ③　働きがい向上

働く社員の職場環境の改善･整備

・働きがいのある環境づくりや職場環境の整備により、従業員の満足度向上へ

従業員が働きやすい・働きがいのある環境を整え、将来を担う人財を確保する観点から、職場環境の整備を行います。現業施設の建て替え、宿泊施設の個室化、駅の従業員用休憩室のリニューアル等により、従業員のプライバシー確保や労務環境の改善により、従業員の満足度向上を図ります。

また、全社員の健康をサポートするため、２０２４年３月～本社食堂をリニューアルするとともに、各職場の食環境のリニューアルを継続的に行っています。２０２６年３月末には、すべての現業職場の食環境のリニューアルが完了し、約２０ヵ所ある食堂施設はリニューアル等により、さらに健康的でおいしい食事を提供。また、食堂施設のない約７０職場には、すべての職場に冷蔵もしくは冷凍庫を設置した「置き型社食」を導入いたしました。

引き続き、従業員一人ひとりが力を最大限に発揮できる、働きがいのある職場環境を整備し、従業員の健康と働きがいをもとに、安全・安心なサービス提供を通じ、お客さまの豊かな毎日を応援してまいります。

【参考】２０２６年３月１９日リリース
「人財確保・定着を企図し、社員の処遇をさらに充実させます！」
https://www.seiburailway.jp/newsroom/news/20260319_shogukaizen/



昨年度整備した従業員宿泊施設内トイレ



昨年度整備した従業員用食堂

◇お客さまのお問合せ先

西武鉄道お客さまセンター TEL. ０５７０-００５-７１２

音声ガイダンスのご案内により、メニューをお選びください。

［営業時間：９時～１７時（１２/３０～１/３を除く）］

以　上